

ホームカミングデー

「経済学部コーナー」に集う



「経済学部懇親会」は11月20日三教場で、名誉教授西村紀三郎先生、渋谷隆一先生、飯岡透先生と経済学部二十年以上在職されている浅野克巳先生、荒木勝敬先生、岩下弘先生、大石雄爾先生、斎藤正先生、清水卓先生、友松憲彦先生、徳永俊明先生、百田義治先生、光岡博美先生、谷敷正光先生、安元稔先生の出席を得て、卒業生との懇談が行われた。

○経済学部コーナーでは「経済学部懇親会」と中済光昭助教授の「ゼミ発表会」が行われた。

こまざわ 経済 通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1



卒業生は他のデモンストレーションに参加した人が多く、出席者は少なかつたが、清水卓経済学部長の挨拶の後、名誉教授の先生の近況報告や卒業生の方々の挨拶があり、なごやかに懇談が進んだ。経済学部第二期、第三期の卒業生は、昔の駒澤大学を懐かしく語っており、写真は懇談会の最後に撮った記念写真です。

○中済先生の「ゼミ発表会」

ホームカミングデーで卒業生を迎えるにあたって、ゼミの雰囲気を出してもうとうとも、現在のゼミではどのようなテーマをどのように研究しているのかを知っていたため、経済学部ゼミ研究発表会を企画した。一号館二〇二教場にて二三・四五から一五：〇〇まで、「ブランド価値形成によるメリットとデメリット（中済ゼミ：高本）」、「電子商取引の過程と発展（中済ゼミ：遠藤・村上）」、「プロ野球ストライキについて考える（橋野ゼミ：鈴木）」、「戦後の日本経済（阿部ゼミ：中塚・松沢）」、「予備校について考える（橋野ゼミ：義村・山下）」、「デイズニーのブランド戦略（中済ゼミ：石黒・五十嵐）」という題目で六件の発表が行われた。



▶川合さん提供

発表者・討議参加者は、発表会での討議や発表会後の卒業生を迎えるのパーティで他のゼミの学生や卒業生と交流を深め、充実した一日を過ごせたことと思う。このような機会を作っていた関係各位にお礼を申し上げます。

（経済学部 中済）

今年、東京地方は夏の暑さ、または大雨の影響がどうかわかりませんが、キャンパスのイチョウの木も駒沢公園のイチョウも黄葉が例年よりも遅いような気がします。

一面トップで紹介されていますが、今年初めて十一月十三日に大学主催で同窓生に、現在の駒澤大学を見てもらうと卒業してから主に十年、二十年、三十年、四十年の同窓生をゲストとして迎えるホームカミングデーを開催いたしました。経済学部でも公開授業や、退職された先生方との懇親の場を設けました。来年も大学主催で「ホームカミングデー」を開催する予定です。卒業年度に関係なく是非大学にお越しください。（日程は未定）

また遅くなりましたが、中越地方の同窓生の皆様には心よりお見舞い申し上げます。これから寒さも一段と厳しくなると思いますが、頑張ってお冬を乗り越えてください。

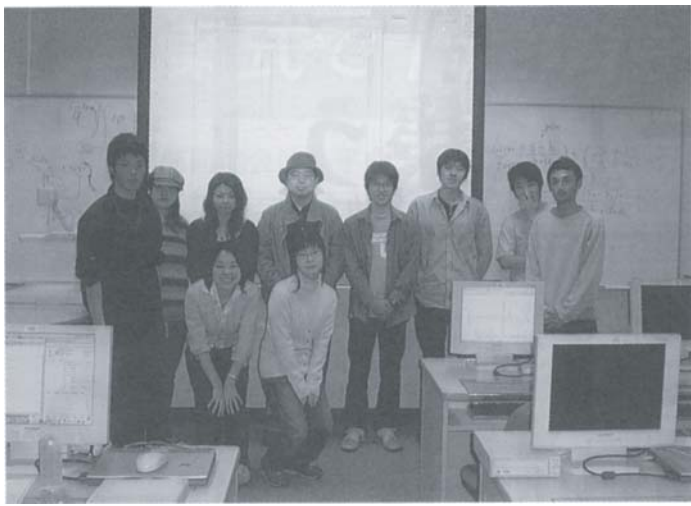
四季報

経済学部ゼミシリーズ

★荒木ゼミ

荒木ゼミから巣立っていった皆様、こんにちは。当ゼミを経験した方なら承知のことかと思いますが、他学年との交流が皆無に等しいため、私の在籍する学年次生以外に本当に存在するのささえ疑いたくなるくらいであります。我が荒木ゼミは経済変動モデルをコンピュータ上にシミュレートすることやパソコンに関する資格取得を課題に挙げ

ているため、ゼミナールとしてはやや異質な体質、方針であり各自の頑張りや重視されるといえます。よって、さほど同演習クラスの仲間でもなかなか密な交流とは言えません。しかしながら私はこの三年間で数百枚に渡るC言語やら汎用ソフトを駆使するために必要となる資料を配布するという大役(?)を大方引き受けてきたことで気づきまし



たが、プリント配布に置けるゼミ生の協働活動はまるで被災地で救助活動に当たる自衛隊、消防隊を抜く連携プレーのような気がしないこともありません。荒木先生にはよく「お前ら、大丈夫かよ?」と心配をかけているわがクラスですが、先生の頭の回転は留まることも、待つということも知らず、プログラムにまずくことがあるうとも「あははははは!」と笑いながら解決策を見出して下さいます。不出来な私はひたすら結果を出せないDTP検定第Ⅱ種ですが、仲間たちは着々と取得しているようで肩身は狭いものの、誇らしい気分が鼻は高くなつてしまふのですが、来年度の二月が最後の機会になるため取得することを神に「いや…仏に誓います!」

萩庭 まこ
経済学部商学科

★清水ゼミ

OB・OGに対する近況報告

清水ゼミ

二年 小由貴英
私達のゼミでは現在ヨーロッパに流れる大河「ドナウ河」について学んで

います。この河に隣接する国、ドイツ・ブルガリア・チェコスロバキア・ハンガリー・ユーゴスラビア・ロシア・オーストリアの歴史について調査しゼミの時間内に発表・

←夏のディベート合宿の写真です。山梨県鳴沢村でディベートとソフトボール大会に向け練習を行いました。ソフトボール大会では、清水ゼミ初の3位入賞となり、先生も大いに喜んでいらっしゃいました。ちなみにこの後みんなで温泉に行きました。



質疑応答を行っています。各国の文化の成り立ちには他国の侵略等により文化を融合・混成化されておらず、一つの文化で維持されていたわけではなく、このような点では日本と共通していることが分かりました。この調査を行うにつれドナウ河に関連する国々の情勢を知ることができ、ヨーロッパ経済を考えるうえで必要となる知識を学ぶことができました。合宿では春の新歓合宿と夏の

ディベート合宿を行いました。春の合宿ではEUの基本的な仕組みと新聞やニュースで報道された現代経済の諸問題についての考え方とレポート作成方法について学び、夏の合宿では決められたテーマに沿ったディベートを行い、討論・傍聴の方法を学びました。これらの合宿で自分達の日欧経済に対する知識のなさを痛感し、今後の経済の動きに興味を持ちました。また、共に学んでいる友

の異なる考えや同調する考えを知ることができ新しい問題に様々な角度から捉えられるようになりました。

清水ゼミでは十一月上旬からディベートを中心に行う予定となっています。これは、清水先生の提案で「社会を広く見据え、情報を自分の糧にする」ということから行われます。先生は現在、私達と同じくらい元気で、最近の言葉を使うならば「ハッスル」してらっしゃいます。先生の温厚な性格

と子供のような無邪気さ、それにお酒に弱くすぐに酔ってしまう姿は何年も変わっていないものだと思えます。しかし、授業では私達に多くの教養を与えてくれます。そんな先生を私達は心から尊敬し父親のように慕っています。卒業された先輩方も共感してくれると同じゼミ生として大変嬉しいです。

今後は多くの知識を得た先輩方との交流会等を催せるよう活動していきたいと思えます。

★友松ゼミ

友松ゼミナールは、二年次生・三年次生・四年次生・フレックスBの四つから構成されています。大まかな流れとしては、二年次生の段階でこれまでの経済の知識を再確認しながら経済史の基礎を学び、今後につなげていくための学習をしていきます。三年次生以降においては、ゼミごとにテーマを設定してよいよ本格的な専門の内容に突入していき、総仕上げとして、卒業論文が待ちかまえています。

友松先生は西洋経済史の担当でもあり、ゼミの内容も歴史と背景をひもといて行くものです。私の所属している三年次のゼミでは、「アメリカ経済史」をテーマに取り上げ、ゼミ生みんなで議論

授業以外では、合宿も行いました。二年次では富浦ゼミナーハウスに行き、三年次では箱根に行く予定です(夏休み中)。合宿では、いつものような授業もやりますが、日頃とは違う環境の中、ゼミ



中雅子氏、第十一期生の安藤千賀氏を講師に迎え、実体験に基づいた経営学の事例を学んでいきます。

二〇〇四年度のゼミ生は経済学科・商学科二、四年を併せ総数六十三名、大学院生が三名です。以前と比較すると少数精鋭ではありますが、ゼミ生同士とても仲がよいです。

ゼミの時間には、経営学を「広く」学びます。二年生は「基礎」（テキストは、『会社とは何か』『日本の経営』など）、三年生は「応用」、四年生は「卒論執筆」を研究します。最近のゼミでは先生の

関心もあり「企業の社会性」に関するお話が多く、「企業倫理」「CSR」「ガバナンス」といった言葉が頻りに飛び交うのが印象的です。合宿も各ゼミ一年一、二回のペースで行われています。今年の夏合宿は、日産自動車栃木工場の見学を兼ねて那須で行われました。まさに「百聞は一見に如かず」という諺どおり「もの造り」の現場を見学することから学ぶことは多かったです。そして夜には、先生を中心に穏やかな懇親会が開かれることは毎度のことです！（笑）以上、簡単ですが、百田ゼミの近況について述べてみました。最後にな

★山縣ゼミ

りましたが、OB・OGの皆様の益々のご活躍を期待しています。
 ＊＊ゼミの近況、多彩な卒業生の姿、第十八期以降の卒論テーマ、「ビジネス事例研究」の内容を百田ゼミ公式HPに掲載中です。ぜひ、一度ご覧頂ければ幸いです。百田ゼミは、「ヨコ」のつながりは強いですが、「タテ」の交わりは今までのまりなかつたので、これを期に連絡を取ることができればと思います。連絡をお待ちしております。宜しくお願いたします。
<http://www.kanzawa-u.ac.jp/~hyakuta/index.html> ＊＊
 商学研究科博士 後期課程二年 松本典子



「ホームカミングデーの1コマ名誉教授の先生方」

ミ生同士で誕生日を祝ったりと、友情を深めるにも絶好の機会となりました。また、経済学部対抗ソフトボール大会にも出場しました。結果は芳しくありませんでしたが、二年次では金融の仕組みをたどるために、教室を飛び出して日本銀行へ見学にも行きました。ゼミは、大学の通常の講義とは違い、より多くの予習・復習・レポート提出を必要とします。し

かし、経済知識の力つくことはもちろん、疑問点の洗い出しや相手の的確に物事を伝える力など、広い分野を養えることができ、少しずつですが、私自身も大きくなれたかなと感じます。なお、友松ゼミのさらに詳しい紹介はホームページでも行っています。ぜひご覧下さい。
http://www.geocities.co.jp/no_seminar
 (経済学科二年、櫻井明彦)

★百田ゼミ

百田ゼミのOB・OGの皆さん、お元気で活躍のことと存じます。百田ゼミは本年三月に第二十期生が卒業しまし

た(卒業生総数三九一名)。先生が今年から新たに担当している「ビジネス事例研究」では、第四期生の田中俊英氏、畠



さして先生が駒大に赴任されたのが一九七五年です。百田ゼミは、ソフボール大会で初のベスト四に進出したことです。五年前に歴史的な初勝利を記録して以来、ここまでの道のりは険しいものでした。これも先輩方の流した涙のおかげです。

「卒業研究」は、三年

位前からだそうですが、四年生に良い目標ができたと思います。テーマは、これも自主的に決めます。自分たちの興味あるテーマを、比較経済の見方で研究するのです。そうはいっても、なかなか定まりませんが、先生の、「オタクを恥じるな！」の一言で、得意分野でいいんだという気持ちになれます。去年卒業の先輩の、「科学忍者隊ガッチャマンと日本経済」を見せてもらったりすると、とても面白く、やる気が出ます。だいたい前の先輩方から見ると、ゼミのテーマはそんなに広くて良いのかとお叱りを受けるかもしれませぬ。先生の講義

も、「ソビエト経済論」から「ロシア・東欧経済論」に変わっています。(国が無くなってもどっこいワシは不死身だ、が口癖)ロシアは最近ちょっと人気がありません。それで、山縣ゼミは少数教育ができるというのが先生の自慢です。先輩のかたがた、たまには学校にいらしてください。(四年生が中心になってまとめました) PS・サザン・オールスターズ・ファンクラブ会報「代官山通信」vol.1・八十九(二〇〇四年十二月発行)もごらんください。(なんだそりや?でもお楽しみ!)

卒業式で「経済学部同窓会会長賞」授与

経済学部同窓会は、平成15年3月25日挙行された卒業式で、経済学部の学生で優秀な成績を修め、人物共に優れた者、経済学科フレックスA3名、商学科3名、経済学科フレックスB3名、合計9名に「経済学部同窓会会長賞」を授与した。表彰候補者は教務部で選考され、経済学部教授会で審議の結果選出された学生で、表彰されたのは以下の9名です。

経済学科フレックスA

学生番号	氏名
EK0175	松本 剛
EK0361	林 理 恵
EK0349	松 田 薫

商学科

学生番号	氏名
ER0154	新 口 恭 平
ER0182	萩 原 千 佳
ER0312	上 味 直 美

経済学科フレックスB

学生番号	氏名
EB0075	丹 治 卓 也
EB0003	椿 山 尚 志
EB0021	馬 場 彰

表彰式は、経済学科フレックスA、商学科、経済学科フレックスBの各教室にわかれ、表彰状と記念品がそれぞれの学生に授与された。

経済学部同窓会は今後とも学業成績のみならず、部活動やボランティア活動など様々な分野で活躍し、顕著な成績や行いをした者を表彰し、経済学部の発展を支援致する方針です。



第十回

経済学部ソフトボール大会開催 — 経済学部同窓会の支援で —

カラリと晴れた秋空の下、第14回経済学部ソフトボール大会が開催されました。今年は天候不順で前日までは悪天候が続いていましたが、当日はまさにソフトボール日和。きっと経済学部の学生、教職員全員の願いが天に通じたのではないのでしょうか。

朝早くから駒澤大学の二子玉川校舎は活気と熱気に溢れかえっていました。午前9時、開会式が行われ、清水卓学部長挨拶の後総勢約700名の学生が繰り出すドラマが幕を開けました。経済学部の学生、教職員たちは第一試合から多数ナイスプレーが続出し、選手を讃える拍手と声援は次第に大きくなり、二子玉川校舎にはソフトボールを純粋に楽しむ学生たちの笑いで溢れかえっていました。日頃から全員で一つのスポーツを楽しむことが中々できない学生・教職員たちにとって日頃のストレスの憂さ晴らしやゼミで鍛えた団結力を見せることができたのではないのでしょうか。

試合は第1試合から各ゼミの意地と意地のぶつかり合う熱戦が続き、決勝戦に辿り着いた時にはもう日は暮れていました。決勝戦、岩下ゼミ対福原三年ゼミはナイター試合、審判も従来の二人制から四人制へと強化して行った。初回からハイレベルな技と技のぶつかり合い。そして、何よりも絶対に勝つという意地の戦いでした。回が進むにつれて激しくなる攻防、そして0対0で迎えた延長5回岩下ゼミの快音が続き2対0で岩下ゼミが福原三年ゼミを破って優勝しました。

第14回経済学部ソフトボール大会は天候にも恵まれ、スポーツを純粋に楽しむ学生たちの清々しい笑顔も見ることができ、すばらしいものになったと思います。最後に審判や大会本部は黒子役に徹し、午後からは二子玉川校舎のちらかったゴミの片付けをしていました。試合終了後、気が付いたら清水卓学部長先生を始め残っておられた先生も、食べ残しや飲み残しの詰まったゴミ箱に手を入れてゴミ袋に移しておられ、その姿に感動しました。すばらしい大会が行われた背景にはこのような人々の頑張りがあったということをお忘れなく頂きたいと思います。課題として次年度の大会では、審判に対する醜いやじや大会本部への無理な要求などを是非慎んで頂ければ、もっと清々しい大会になるのではないかと思います。それでは、また二子玉川校舎で会いましょう！

審判・大会本部代表 文学部歴史学科三年 渋谷英俊



《同窓生の皆様へお願い》

住所変更、氏名変更等が生じた場合は、大学同窓会事務局へご一報ください。

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
駒澤大学経済学部同窓会 03-3418-9189